

□随想□

鎮魂の町——神戸

楠本憲吉

え・津高和一



京阪神急行神戸線が芦屋川駅を過ぎて、岡本駅にさしかかる頃、山側の窓を見ていただくと、山頂に神社の鳥居が見える。保久良神社といって、本山町の村社である。

私は昭和二十四年の秋、

秋かぜや山脈おのが影いだく

の一句をその神社に捧げて、トランクひとつ提げて上京した。『家』というやり切れぬ重荷から脱出して、母校の仏文科へ学士入学するためである。金もなかったし、東京に家もなかった。ただ目に見えぬ強い糸に引かれて闇雲に上京したかったのである。今にして思えば、文学に欺かれていたとでもいえようか——。

保久良神社は、事あるごとに、私の母の悲願を叶えて下さる神の鎮座されるところであった。私

の受験、病氣、出征……そのたびに、母は何カ月か早朝に起きて、山頂の神社まで『願かけ参り』をやってくれたのだ。そして、私の少年時代のいろいろな思い出を集斂するいわば青春の象徴といってもいい存在であったのだ。

とまれ、その神社に一句を捧げて出郷した私は今日まで在京神戸っ子として東京沙漠の一角に居を構えるひとりとなったわけだが、私の心は常に神戸を恋慕し、まるで青写真のように神戸という土地が心の奥処おくどころに焼きついているといっても過言ではないのだ。

私の店の本店が大阪にあり、私の所属する俳句雑誌の発行所が尼崎にある関係上、下阪の機会は多く、下阪するたびに、ひまを作っては神戸へ直行することになっている。

しかし、行くたびに強く感じることは、神戸も狭くなったということである。それは恐らく人口

の膨脹の結果、過密都市になったからだろうが、私の心に宿る神戸のイメージは、ゆったりとした、中国の大人を思わすような悠々たる町なのだ。あの悠々たる町で悠々とした青春を過ごせた幸福を私は何に感謝してよいか分らぬといつてよいのだが――。

終戦直後、復員の軍服のまま、神戸へ出たときも、変貌の激しさに驚いた。三の宮の鬧市のあの強烈な匂い、屋根のない駅のプラットホーム、そして一面の焼け跡――呆然と立つ私の肩をポンと叩く男がいた。知りあいのトルコ人のレスラー、サデリン氏であった。私はその夜、鬧市で彼とバクダンを痛飲し、銀シャリの焼き飯を食って、山手通りの彼の住む、焼け残った優雅な洋館に泊めて貰った。私は応接間のソファで毛布を借りて寝たのだが、夜なかに、温かい体温を感じた。そっと、手でさぐって見ると、毛皮につつまれている。ギョッとしてからだを動かすと、私にびったりくっついて眠っている「毛皮」が不機嫌に低くウナるのである。

犬であった。サデリンの愛犬の巨大なシェパードではないか。

からだを少しでも動かすと、ウ……とうなる。怒らせて噛み殺されては大変と、じっとしているのだが、むし暑い夏の夜、毛皮にくるまれて寝ているようなものだから、こっちはたまらない。

とうとう朝までそのまま一睡も出来ず、窓が白んで来てヤレヤレと思った。六時になって子供たちが起きて来、やっと毛皮から解放され、挨拶もそこそこに逃げ帰った思い出がある。

このサデリンが米軍P・Xから買ってくる、ウィスキーや煙草や化粧品や洋服生地を一緒に売って歩いて終戦直後の猛インフレを乗り切ったわけだが、故国のトルコへ引き揚げた彼は、つい最近病死したそうだ。

大学へ入ったばかりの私が生れて始めてバーというところへ行ったのも、三宮生田筋の一軒の店であった。私の隣家のM家の息子、立命大の学生の手引きによるもので、その店のSちゃんという二十七、八の女性から実に親切にされ、休みが終って上京してからも、次々と手紙をくれ、バーの女性とは何と優雅で親切なのだろうと感激したのだった。しかし、間もなく学徒兵として出陣した私は、入営中に、MとSちゃんの死という悲報を受けとった。MがSのアパートで寝ている最中、焼夷弾の直撃をくらって二人とも黒こげになって死んでしまったとのこと。私は二人の死を悼むとともに、私の青春の一駒の喪失をも悼まねばならなかったのだ。

こんなことを書いているうちも、神戸税関でタピストをしていたF嬢のこと、奥さんに逃げられた暗愁のギターラ、Nさんのこと、灘中(現灘高)時代の友人の誰彼のこと、まるで浮雲のように次々に脳裏に浮んで消える私のだが、訪れるたびに変身してゆく神戸の姿に、内心ハラハラしながら遠くから見守っている私でもあるのだ。

書かでものことだが、「秋かせ」の句は、句碑として、私の母とそして私の青春の鎮魂のために、保久良さまの境内に建立させていただくことになっている。

△俳人▽

□ 随想 □

ススキ・ハブラシ

市野弘之
え・津高和一



たたきつけるような暑さ、刺すような光、青黒い真夏の空も八月になると、だんだんと深く澄んできて、まるでこしらえたような白い雲の一、二片遊行する。その一隅に、思いがけず、うろこ雲のゆつくりと、拡がってくるのを見かけ、「ホォー」と思い、一瞬、秋の訪れを感じる。

そう思っで見ると、山の気配も何となく、それその木の葉も固く、色あせた感じで、猫の額位な前の田圃も、早稲が穂を揃えて、一陣の風にも情炎が体内にめぐるように、うねりを拡げて行く。撰津の三田と、丹波の立杭の境に三本峠と呼ぶ小さな峠がある。峠の頂上あたり、鎌倉室町とつづく古窯趾が群集し、その一つの昔日の面影を止めるあたりは、国境の感じの深い所。向うの山に播磨の清水寺の堂塔が、指先にふれんばかりにあり、雨降れば、水は撰津へ流れ、秋風は播州よりあるいは丹波より撰津へ吹く。このあたり一面の穂を出したばかりのススキが、その数条に分れた

穂先の波の揃うあたり、その黒い穂波が清水へ、三田へ、といっせいに、おじぎをしている。

その丹波の風に乗って、一路神戸へ、三田を過ぎ有馬街道の右左、墓地を見るような団地、荒けずりの山、思いもかけず、ガソリンスタンドの傍に一むらのススキを可憐な感じで見ると、

先日の水禍の爪跡も生々しい天王谷、その恐しさ、秋がごっちゃになった涼しさ。

九月という月は、例年神戸大丸での個展の月で、その時季が迫ってくると、会場でお逢いできる幾多の人たちの顔が、目前に浮んでくる。

春の大阪東京の個展準備を終えると、構想を練っていた今年の課題作にかかる。新しい仕事はまず、神戸の人に見て頂いて、いろいろと批判して頂く、その方がたはきびしく、また懇切に批評してくださいるので、大変有難い、そうしてつづけた仕事を翌年、他の会場へ持って行く。

こういういい方をたくさんお知合いにもって、

創作をつづけることは、全く幸せて、そんな中で、一番嬉しいのは、幾度も繰り返すことだが、創作の壁に衝き当って、苦しんでいる時で、あちこちと誘ってくださったたり、見たり話したりしている中に、いつの間にか、一塊の土を前にして、はげしい闘志を灯している自分を発見させられる。

数年前、私達工芸作家の集りである会が生れたが、その初め私個人的にあまり気乗りがせず、しぶっていたものの、周囲からつつかれ、止むを得ず出る事に決め、数回の発起人会を重ね、いよいよ

小人数ながら、発会式を行ったところ、顧問にお願いした先生より、「もっと広く調べて大勢に呼びかけるように、今日の会は発会式とせず、発起人会とするように」とおおせになった。初めて付合う会員達で、その様子も分らなかつた私は何故だろう、と考えながら二年程くれている中に、漸くそのことが分つてきて、何故あの時、もっとじっくりとよく調べる時間が持てなかつたかと悔まれてならない。

それでもヨタヨタ歩みつづけるこの会の事は、大変ご心配くださり、絶えずいろいろとお教えくださることは有難く、そういう方がたくさんおられる神戸は、母なる土地のように思われる。

このたびここ数年来の懸案であつた鎌倉、室町時代の穴窯を、ようやく築造することができ、仕事がだんだん楽しくなつてきた。いくら焦つても出せなかつた古陶の良さが再現出来、現代作品にこの良さを盛り込むことができる。今年の会は、この試作をお目にかけることが出来、ご批判をいただく心算りでいる。

ススキばかり見ながら、神戸へ出たけれども、何だかススキがすぎで、よくスケッチをしたり、また陶画にもする。その中の一つに、数年前のこと、川辺をぶらぶらと歩いている時、一陣の川風に堤のススキが、実に面白くなびいていったのを、さつそくスケッチして見ると、なかなか面白い。たまたま大ぶりの湯呑を造つて、窯詰前になっていたので、これにその絵をのせて見た。ところが焼上つて見ると、何だか分らぬものになつてしまつた。

でも面白いので、それを三宮の店で食器の会をし、その時、一諸に出して見た。しかし誰もこの絵は分らない。「何の絵か」と尋ねられる。分つてくれないのはしゃくだし、分つてくれない方がいいと思う気持もあり、にやにやしていたけれども、何かのはずみに、このことを話したところ、すかさず「これはハブラシヤ」、これにはギヤフンと参つて返す言葉もない。お蔭で当分の間、この湯呑み、ハブラシヤ型湯呑みと言う通称を頂戴することになった。今思い出しても、唯々苦笑するばかり、まだ、この湯呑み、あちこちに残っているかもしれない。あれば新しいのと交換してもらえないかなと思つたりもする。

秋の装いの街に夕闇が迫り、うまい酒、うまい魚、肉、そんな中に、秋の夜の神戸はだんだんと刻を深めて行く。その頃、去りがたい心を押えて六甲越えにかかる。今までたむろしていたネオン街が一段と明かるく、美しく、夜風がしみる程、爽かで、百万弗の夜景はずんずん拡がってくる。

朝寝坊と
早起き

十河 巖 〈文・え〉

夏の暑さで、たるんでいた皮膚が、初秋の訪れとともに急に涼しくなった大気の刺激をうけるとなんとなく体中に新しい力がみなぎってくる。思いついて鉄垂鈴やエキスパンダを買ってきて、芝生上で体操をはじめののもこんな時期である。

ちょうど、去年の九月末だった。急に思いついて「朝起き登山」をはじめの気になった。生来、朝寝坊のわたしは職業として新聞記者を選んだ理由のひとつもこんなところにあつたらしい。記者修業をはじめ、三十何年間というものは、毎朝十時か十一時に出勤すればよかった。それから、S洋酒会社にうつる時にも午前中はご勤弁を願って、ひるから出勤させてほしいという我ままな条件が許された。

物凄く郊外電鉄の朝のラッシュ地獄を一生経験しないで済むことができたとは、全くせいたくな人と、子供たちはわたしのことを結構人といつてひやかすことがある。しかし、朝寝坊の代りに宵っぱりはもちろんのことである。新聞社の社会部で、労働運動を担当していたころ、それは、昭和三年から十年あまりの間の労働攻勢時代で、大工場で争議が連発して、明けても暮れても

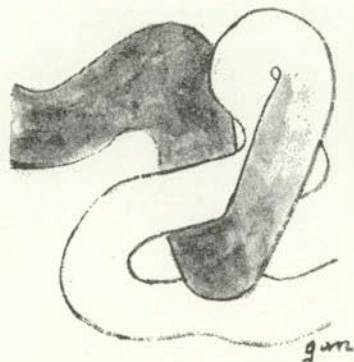
ストライキ、ほとんど毎日、家に帰ると、午前三時の長い季節は午前三時半をすぎると、東の空がほのかにしらんでくるころである。

こんなにして、朝寝坊をつづけてきたのに、一転、朝起きになるには相当の努力と決意が必要だった。

徒歩は相当の急スピードで歩かないと体重をへらすのに効果がないというので、自宅から石屋川上流の一王山十善寺まで六キロの道を一時間半で往復することにした。

六時半ごろから早朝体操会というのがあって、お寺の境内の広場でラジオ体操をやっている。いかに早起きを決意したといっても約三ヶ月の間、これには一度も間に合わなかった。だが、境内にある不動明王の銅像の前に立ち、サシで自己流の体操をやつて、山を下った。

山に登る以上は、登山家たちと同じような気持になりたいと、すすんでそれらの人とおつき合いをすることにつとめた。早朝登山会の人たちは、毎日の登山をつづけるために、ずい分努力を払っている。登山回数記録にも大変な興味と執着をもって、人によると毎日の登山のために、日常生活における重点をおくとも、最



大の興味を発見し、しかもそこに満足感を得ている人もある。

茶店で少憩する間にミルクや甘酒のみ、さらに帰途気の合うもの同志が喫茶店によって、コーヒとトーストを食べて朝食をすませる。人によると、そこを出て、もう一軒お茶をのみに、喫茶店にとびこむ人もある。「はしご」は夜の「のみや」ばかりかと思つたら、朝の「はしご喫茶」というのがあることを知った。

だが、朝の「はしご」は「夜のはしご」とちがって、すこぶる健康だし、清潔だ。しかも経済的でもある。

わたしは、この三ヶ月の「毎朝登山」のうちに早寝早起きか、朝寝宵っぱりかの、その優劣を実践的に考えてみた。むろん、これは単なる早寝早起きとちがって、毎朝登山するという条件つきのそれである。

何年かに一度、水害があつても、すぐ近くに裏山をひかえた神戸人は、登山の機会に恵まれている。神戸市民は幸福である。今では裏山登山は神戸の名物になつていて、その人口もおびただしい数字にのぼっている。裏山登山は、健康のためには、たしかにいいことだ。しかし絵を描き、ものを書くことを仕事にしているわたしにとっては、どうしても早起き登山をつづけることができなくなつた。正月に石油コンロの茶瓶の熱湯を足にひっかむつたのを機会に、ついにもとの朝寝坊に逆転した。

第一番に朝のうちに六キロも歩くことはせつかく眠つて貯えた精力を全部消耗してしまふことになる。第二に、いくら朝早くおきても、午前中の時間には、寝ていれば出なくても済むことでも、一家の亭主である以上、目があいていればどうしてもやらなければならないような仕事に追いまわされることが多い。従つて、瞬く間に、朝の時間はたつてしまふ。

それに反して、夜の時間は他人にわずらわされず、完全に自分の時間で、仕事のために二時、三時になつても、あとの睡眠時間よりもむしろ睡眠の深さによつて

補いがつけられる可能性だ。むろん自由業だから十分朝寝をしてもいいし、朝寝坊から目ざめたあとの快適さは、何にたとえようもない。

それかといつて、やはり年のせいも、かんかん日が照つているのに九時や十時まで寝ているはずとさがなくなつてきたことを無視することができなくなつた。

わたしとしては、朝寝坊にも、早起きにも、どちらにも組みすることができなくなつてきた。ずつと昔に、八月に亡くなられた新村先生からいただいた「言志叢録」から一部をぬき出した短文の色紙をさがした。

「老人自養有四件、日和易曰自然曰逍遥曰流動是也、諸激烈事皆有害」

なるほどこれなる哉と思つた。新聞ではよく五十を越した人間に老人という形容詞を

使いたがる。男女平均寿命が七十を突破したからには、老人という形容詞や代名詞は、少なくとも七十才からの年寄に使つてもらいたい。この際、「老人」の値上げを希望したい。

その老人たるものには、必ず逍遥が必要である近頃のことだから必ずしも静かな登山ばかりではなく、時には冷暖房のきいたデパートでも、商店街でもいい。逍遥することがいい。

また早起登山会も結構である。だが、一年三百六十五回の記録をつくつたり、人によると一日に二回登つて三百六十五回を超過している人もいるこんなに記録にしばられることには、賛成できない。記録はいいとしても拘束されることはかなわない。それでは、逍遥とはいえないし、また自然でも自由でもないからである。もし朝早く目がさめて、山を散歩したければ自由な気持で登山にステッキを振るがいい。街が歩きたくなければ、そこそ間違に市街を歩きまわることである。せつかく名利をすてて、ちとつた生活の自由だから、もつと自由を大切にしたいと思うのである。

△洋画家▽

LONGINES



流行をはこぶ
ロンジン



特約店



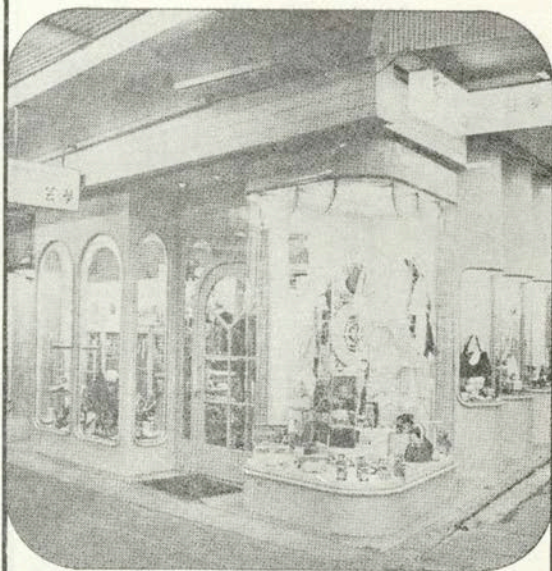
美甲時計店

元町店・元町三丁目 TEL 33-1798

三宮店・さんちがファンシータウン TEL 33-8798

楽しい夢のある

ショッピングを!



トア・ロード店の芸夢は……
国産・舶来アクセサリ
センスある品々
ニュー・モードがいっぱいで
ぜひお立寄り下さい。

コスチュームアクセサリーの店

芸 げい む 夢

神戸店/トアロード ☎8643・2293

大阪店/心斎橋ロビー (211)5153・1044

京都藤井大丸1階 京都 <23> 8181



呉井 栄
みよこや

電話神戸③三三八八〇九番
大阪店 阪神百貨店三階
電話 大阪 〇五五四八番
姫路店 やまとしき百貨店三階
電話 姫路 ②一三二二番
衣裳部 三宮町三丁目柳筋
電話 ③五一六五番



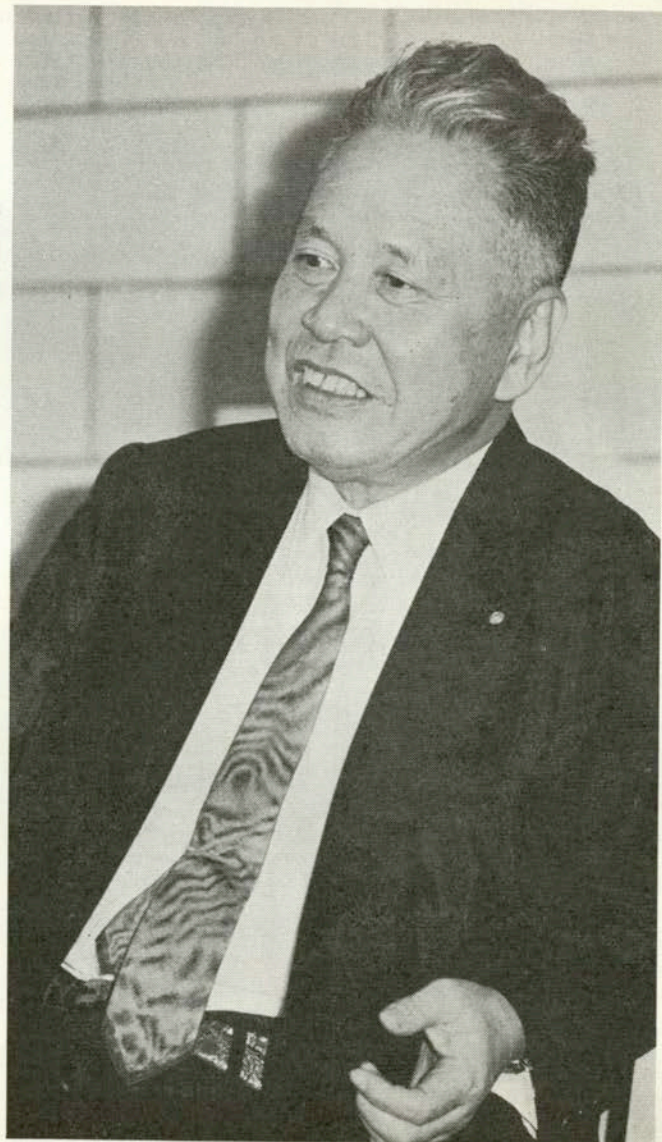
さんちかスイーツタウン店が
9月1日オープンします。
トーアロード店同様
よろしくお願ひいたします。

龜の井 龜井堂本家

三宮トーアロード

TEL 本店 33-0001
南店 33-1616

さんちかスイーツタウン TEL 33-6532



□ 神戸っ子対談 □

直木太一郎氏

神戸を公害のない町に!

直木太一郎〈神戸倉庫株式会社社長〉

永田良一郎〈永田良介商店社長〉

★私は四代目の神戸っ子

直木 私は兵庫の生まれでしてね。入江小学校から二中に入り、それから東京へ行って一高―東大と進みました。神戸に帰ってきたのが大正十一年で、それからはずっと神戸です。入江小学校では川西清一さんが先輩にあたりますし、東ロータリークラブだけでも入江小学校出身で

会が出来る程いますね。割合古いし、案外、世に知られている人も多くいます。私の親戚にあたるのですが、今国立音楽大学にいる有馬大五郎さんや一柳信次さん、詩人の竹中郁さんも三年程後輩です。あの頃にはいい先生がおられたのかも知れませぬね。

永田 大学を出られて神戸に帰られたのが大正十一年ですと、私が大正十三年生まれですから、私の生まれる前

ですね(笑) 私は現在生田区ですが、神戸市神戸区があった頃で、神戸幼稚園から神戸小学校―神戸一中と進みました。それから今の神戸大学経済学部の子科へ入り、学部を出てからずっと神戸でして、神戸のことしか知りません(笑) 仕事の方は私で四代目になるのですが、親父が沖繩で戦死しましてね、今生きておりましたら、まだ親父の代で今頃ケンカしながらしかられてばかりいる時代かも知れません(笑) 直木さんのところは何代目になるのですか?

直木 私も四代目にあたります。もとは兵庫で終戦まで米穀類の貿易の仕事を支那大陸、東南アジア、朝鮮、台湾方面を相手にやっていたんですが、統制の関係で辞めまして、そのあとご承知のように倉庫の仕事をやっています。親父の代までみんな久兵衛の名を継いでいたのですが、私はそれがいやだったものですから、生まれたときにつけてもらった名前で押し通しましたがね(笑)

★公害のない町に

永田 直木さんと経済同友会との結びつきは深いですね
直木 同友会をはじめつくるときから関係していますあのときはご承知のように戦後の日本経済をわれわれの手で建てなおそうと、つまりヒューマニズムでね、それを全国的につくりあげようと出発しましたが、同友会が昭和36年ぐらいに地域開発の問題をとりあげたときに、全国的に一体となった同志感がうすれました。東京は東京で勝手にやるので、地方は引きはなされた。その後倉敷で「利潤追求」の問題でセミナーがありました。そのとき私はヒューマニズムで経済を再建するという理想を失なってしまったんです。ですから同友会にも失望しそれからというもの同友会に対してあまり力を入れることもできず、いや事をいっているようなところ。(笑) 同友会も商工会議所も、今の状態では東京・大阪の財界なんかを追隨している感じがします。枯れ木も山のにぎわいといいますが、そんなことをしていたら存在

価値がないと思うのです。会議所は法律的団体ですからまだ存在の意味はありますが、特に同友会の方は任意団体ですからよけいに存在の意味がない。ですからこの際にひとつ同友会には大転換を計ってほしいと思いますね。これは提言ですが、神戸を「公害のない町」にしようというものです。これをかかかってひとつに結集してほしいのです。

公害といってもいろいろあり私害も含めて大きな広い意味で考えることです。神戸は公害の少ない町だといえるのですから、同友会も会議所もそれから他の諸団体、それに県市もこそってこのひとつの問題に結集し、立ちあがったら、今の追隨団体から独立して大いに存在意義のある団体に成長するのではないかと思うのです。

永田 なるほど、それはたしかに重要なことですね。今まで商工会議所は陳情する団体で、同友会は考えるだけだといわれてきましたからね。もう少しヒューマニズムに立脚したアイデアを出していくようにして、神戸を特色ある町にしたいですね。

直木 公害についていろいろいわれていますが、まだまだ空気はうまいし、海は近いし、山は近く、水はきれいだときているから「公害のない町」とするには東京・大阪・名古屋とくらべてみてもみても一番やりやすいといえますね。ことに産業方面の産業公害については大きな企業の犠牲でやめてもらうということです。大きな企業というのは川崎と神戸製鋼などですが、川崎は大正時代のころから神戸市や神戸市民に迷惑をかけたときもあつたし神戸市民のお世話になってあそこまで大きくなったのだし、神戸製鋼だって古く鈴木商店のころから市民に迷惑をかけ、市民の手を借りて復興した会社なんだから私は思うのにこの二つはどんなことがあっても恩返しの意味で、何億円かけても産業公害をなくするためにやってもらわなければならないのです。県市当局では川崎や神戸製鋼に大分遠慮しているが、神戸市民としては少しも遠慮する必要はないのです。同友会がまず旗印をあげて



るんです。

直木 以前に同友会でも案を練りましたときに、神戸は国際商業都市として進むべきではないかという意見を出したのですが、それは氏今でも正しいと思うのです。公害のないきれいな町にして、ショッピングもしやすい町に良ければ神戸の性格にあったものとなるし、それ田うすると自然に中小企業を育てあげることに企業に属するようになります。

「公害のない町」をつくるために努力すれば、経済界全体に元気がつくのじゃないかと思えます。何事にも完全なものをかねそなえている都市になるためには神戸は地形的にいても無理なところで、やはり神戸は神戸としての特色をうんと強くしなためですね。港があまりすが、これは今では大きくなりすぎて、はやく神戸からはなしてポートオーソリティーとか国に移してしまわなにかえてその重みが負担になります。神戸は「公害のない町」にするため全力をそそぐべきだと思います。「公害のない町」なんてどこにもないのですからぜひやってもらいたいですね。

★あくまで国際商業都市として

永田 神戸という町は川崎や神戸製鋼などの大企業と、中小企業、といっても零細企業と同様なのですが、その双方の差があまりに激しくて、中間にあたるパイプになるものがないという感じなんです。そういうことから神戸はアンバランスな町だといえるのじゃないでしょうか。六大都市のひとつとして、いわゆる特別市政をおこなう地位にありながら、活気というか、エネルギーというものがあ

て、京阪神が一緒にやっているのですが、中小企業という感覚ひとつにしても大阪とは全然

違うんですよ。大阪は中小企業の範囲をもっと広げろといっている。たとえば資本金を三千万円以下とか従業員の数が三百人とかいう規定では駄目で、五千万円とか一億円までも中小企業のなかに入れるというわけです。ところが神戸の感覚では、三千万円でも大きすぎるというところなんです。そこで思うのに、そういうところで足並みを揃えなくとも、神戸は神戸の行き方があるわけで、直木さんのおっしゃる公害のない大都会にむろすべきだと考えます。

直木 もちろん、公害のなかに水害も含まれますがさる七月の水害で、商工会議所が動いている様子は全くなかったですね。宇治川商店街をはじめ、あちこちの商店街でも大きな被害を受けているし、しかも法律上の問題もあるというのに、こういうときにこそ、商工会議所がもっと活躍すべきじゃないかと思えますね。

先日、神戸市から「神戸市史」に載せるから「経済団体」のことを書いてくれと依頼されました、商工会議所の歴史を調べたんです。そしたら大正九年にあった室戸台風で、神戸港内の大企業や工場が大きな被害を受けているのだが、当時の商工会議所は動いていない。ところが昭和十三年の大水害のときには当時の商工会議所会頭

だった榎並さんからすべての人たちがフルに活動して、その他復興委員まで設けて、災害後二、三カ月も続けて活躍している。それにくらべて、今度の災害で会議所が全然動かないというのは非常に不思議に思います。

永田 会員倍增運動というときには熱心にやりますけれど、商店街の人たちもこんなときに頼れるものではないというふうな感じですね。

直木 それでは全然、信用がないということですよ。こういうときこそ、会議所というのは存在理由があるのであって、東京・大阪に追隨しているだけでは、そんな会議所だったらいけないということになるんですよ(笑)

★病床で感じた虚飾に対する憤り

永田 ところで最近、直木さんの出された随筆「水手」についてお聞きしたいのですが。

直木 この前病気になるたとき、病状を説明するために以前書いた随筆を、友人の香西さんたちのすすめで、まとめたものです。よく読み方を聞かれますが、本人もどう読んでいいのかわかりません(笑) 手が水みたいになったのでつけたわけです。

永田 むちうち病というのはたいへん複雑な病気だと聞いていますが、あれは手がしびれて氷のようになるのですか？

直木 「むちうち病」は神経的な複雑さをもつ病氣らしくて、手がしびれたり、足が動かなくなったり、その人によってちがうのです。私の場合は両手がしびれて氷のようになっただけです。もっとも他人がさわっても氷のように感じることはなく、どんなにあたためても自分で氷のように感じるのです。山口県で開かれたロータリーの大会で倒れたのですが、そのときにはたいしたことではなく、一カ月程あとから出てきました。その間、あちこちと旅行しましたし、夜ふかしもしましたから、よけいに長びいたのだと思います。今ではもとにもどりませんが、みなさんには本当にご心配かけました。

永田 手がご不自由だったとすれば、ご本をお書きになるときは口述をなさったのですか。

直木 以前に口述筆記を秘書に頼んでやった経験がありましたので、今回も秘書と家内の二人に頼みました。口述だと楽だし、あとでなおす二重の手間がかかりませんが文章が手で書くよりやわらかくなるのでいいですよ。

話は変わりますが、私の友人で兵庫米穀の社長で香西精さんという人がいますが、その人は真実を愛しそのかわり虚飾を非常にきらうんですね。さらに知識を重んじて、無知というのを許さない人でね。虚飾な人とか無知な人と出会うと腹を立てるのです。私は病気で寝ている間に、以前はそうでもなかったのにどうもそういう性質に近づいたような気がするんです。虚飾のなかでも一番感ずくことは、アメリカのケネディ大統領が殺されたあと、ウォーレン報告というのがありましたね。私は、あれはあきらかにこしらえごとだと思っております、あんな大きなことにこしらえごとをしてそれを押し通しているということですね。あれから私はアメリカに対する信頼を全然失なってしまいましたね。さらにアメリカのロータリークラブの会長が来日したとき、「世界を愛するというのは漠然としている、私が問題にするのは隣人を愛することだ」と話しているながら、アメリカのロータリーでは黒人が一人もいないんですよ。言っていることと違いますがね。元気なときはそんなに気がつかなかったのですが、病気になるって余計に感じるようになり、アメリカにもロータリーにも失望しました。日本でも、あまりウソをついたり、こしらえごとをしたり、またそれを押し通すのを見るとまったくいやになります。いやになるだけでなく香西さんのように憤慨する性格も似てきたように思います。

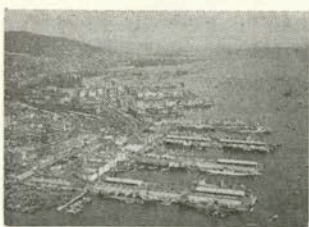
永田 身近かなことでは、どろぼうには腹を立てても交通違反ならそう腹を立てないことがよくあるが、もっと虚飾に対して腹を立て、公けの憤りをあらわすことが大切なのであって、みんながそういう気持になれば、もっと住みよい世界になるかも知れませんね。(文責・編集部)

経済ポケット ジャーナル

★26年ぶり横浜に首位譲る

貿易額ニッポン一を誇ってきた神戸港が二十六年ぶりに横浜港に敗れた。

神戸税関の調べによると四十二年上半期(一―六)の神戸港輸出入額は七千四百四十一億円で、横浜港(同七千八百四十六億)に昭和十六年以来初めて首位を譲った。全国の輸出入額に占める神戸港のシェアは年々減少の一途をたどり、四十二年一―六月のシ



神戸港の外国貿易の中心施設新港突堤

シェアは二七・三% (横浜二一・一%) となった。三十五年のシェアが三六・七% だったのに比べれば大変な減り方だが、神戸港の輸出は主力の繊維が振るわず小



口雑貨が多いという体質的な事情に加えて、全国主要五港をしのぐ勢いで伸びる地方港の活躍がいちじるしいところから、ミナト神戸のシェア低下は今後も避けられない。

ただ、全国の伸びには追いつけないものの神戸港貿易額は年々伸びており、通関に当たる神戸税関は相変わらず大忙しです——と塚本孝次郎税関長がもっぱらPRより現場をたどる。

★事務より現場で働くこう

兵庫県では高校進学率の上昇、機械の高度化などで製造業の現場要員の求人の中卒から高卒へ切り替える企業が急増しているが、肝心の高校生、両親、教師の間はまだ事務職種を優先して考える風潮が抜けていない。このため県職業安定課は、高校を卒業して現場要員として活躍している約五十人から感想文を集め、これをもとに各学校を通じて現場の仕事の重要さや仕事の具体的な内容をPRしていくことになった。感想文は最近一、二年の間に高校を出て工場に勤めている青

年から各職安が選んで書いてもらい、事務職種との制服の差別に対する考えなど不満も卒直に書いてもらい、受け入れ企業にも改善を働きかける。

県内の来春中卒予定者で就職を希望しているのは八千七百六十八人で全体の一三%弱。今春の就職者よりも二千百人(二四%)も少ない。このため現場要員を本格的に中卒から高卒に切り替えようという企業が多く、県の推定では来春高卒予定者に対する求人が約十万人と予想されるうち七

万人以上が現場職種と見込まれていく。高卒予定者六万四千二百四十三人のうち就職希望者は二万八千三百五十九人だが、これまでのところ相変わらず事務職種を希望するものが圧倒的。

★家電商が西日本チェーン

スーパー、ビッグストアの安値販売に対抗して、協組や共同仕入れ会社形式のグループ化が西日本の電器

小売り店の間で進んでいるが、さらに組織を強化するため兵庫、広島、山口、岡山、香川、五県の九グループが連合会組織の「J・TOP」を設立することに決めた。八月下旬にも神戸市内で設立総会を開き、当面任意団体として情報交換や経営指導に当たり、チェイン組織をさらに拡大しようという大がかりな共同仕入れ事業に乗り出す。

J・TOPの「J」はジャパンの頭文字。加盟を予定しているのは協同組合神戸家電、阪神相互電気産業(株)、姫路電器(株)、協同組合広島家電、備後産業(株)、岩国電器協組、協組下関、レコードセンター、備前家電協組と香川県のグループで会員店は約二百五十店。会長にはJ・TOP推進役をつとめた兵庫県電器小売商業組合理事長の岩井弘光氏が就任する予定だが加盟店を早急に千店以上に拡大、正規ルートで安く仕入れ大規模店に対抗する。

※KOBEオフィスレディ※



大林道子さん (19)

三菱ホームコーナー(三菱商事)勤務「清楚」という表現がぴったりなお嬢さん。今年の4月に入社して、さんちかPRタウンで三菱商事、三菱重工、三菱電機三社のPR役をつとめている。目下は各商品の知識吸収に一生懸命という。趣味は読書、レコード鑑賞、園芸。理想の男性は、内面的にしっかりした人という彼女。おとなしいがシンのある女性である。親和女子高校卒。

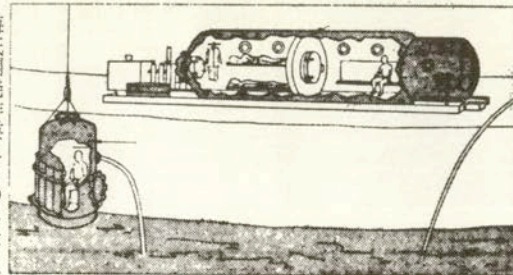
■技術ジャーナル

海底開発に

SDC工法

諸岡博熊

△神戸市調査室副主幹▽



上部圧力タンク・SDC（垂直タンク）左

海底開発作業にSDCなる工法がアメリカで成功している。

Submersible Decompression Chamber とよばれる直径一・五呎、高さ二・五呎の垂直タンクとボイラー状の水平タンク（直径二・一呎、長さ六・四呎）の組み合わせられたものを使用する。

一九六五年夏アメリカ、バージニア州のスミス・ダム（補修工事に利用されたものが世界で最初でつづいて同年バハマ島のナッソー

で水深一三二呎の海底の石油開発作業に成功している。スミス・ダムの場合、水深六十呎のダム下部にある除塵格子の補修に、SDCを応用した。ダムに湛水された水を放流し、現在の水位にまでもどすには約二カ年かかる。ところが、この工法は放流することなしにたった二週間でOKであった。通常の潜水方法では一日の作業時間は三十分以内に制限され、工事に二カ月を要し、経済的でない。しかし、SDC工法によると、潜水夫は一回二時間の作業を一日三回も行ない、しかも、一組四人で連続作業となり、通常の潜水夫一人当たりに対し32人分に相当する。

× × ×

その構造および機能を説明すると水平タンクは地上に置かれ、出入口と食事の搬入口ならびに非番に当たる潜水夫の生活場所がある。内部は気密扉をもつ隔壁で二室に分かれ、テーブル、寝台その他がある。一方、SDCといわれる垂直タンクの底部には水中で潜水夫が出入する圧力扉と側面には水平タンクとの往来可能な圧力扉がある。タンクの生活は四人一組で出入口から水平タンクに入ったときから始まる。出入口の圧力扉を閉じると、酸素、窒素、ヘリウム、よりなる混合気体でタンク

内の気圧を作業水深位置の水圧まで上昇する。酸素、窒素の分圧を正確に保つ自動調整機構は、このSDC工法全体の中核部であるといわれ、その詳細は不明である。

× × ×

水平タンク内で圧力になれた二人の潜水夫が垂直タンク(SDC)に乗り移ると、両タンクは分離する。SDCはクレーンで水中の作業位置まで降下する。潜水夫は底部の扉を開き水中に出て、通常の作業に従事する。この際、SDC内部の気圧のため水は浸入しない。SDCと潜水夫との間には、命綱があって、半径十五呎以内に活動範囲を制限している。

この命綱に、混合気の送気管、

照明用電気、通信線、さらに温水パイプがついている。温水パイプで作業中の体温の低下を防ぐため、約四十五度Cの温水が作業服の内部を循環するようになっている。


SDCの底部には約七〇ポンドのおもりがあって常時浮上を防いでいる。緊急時、潜水夫自らがこのおもりを取り除くと、急速にSDCは上昇する。この方法にすると通常の潜水の際必要とされる加圧、減圧に用いる時間が節約され、任意の深さで四人一組で連続作業が実施可能となる。

本格派
紳士に愛される
神戸の靴です



★靴のオーダーメイド

ヨシカ

神戸大丸前・33-5190 9763
東京  白木屋 1階・211-0511(代)

神戸っ子のハイセンスに
ぴったりのめがね……



新型輸入梓豊富入荷

- 天体望遠鏡 ●顕微鏡
- 航海計器 ●光学器一般

服部メガネ店

大丸前 TEL (33) 1123

認 公

伊東連盟校

戸塚敏衣服研究所

神戸新聞会館東隣り

三栄ビル四階 TEL (22) 6268

★入学期 四月・十月
★洋裁本科・高等科・研究科・男子科・手芸科



マロングラッセは

ヒロタの銘菓

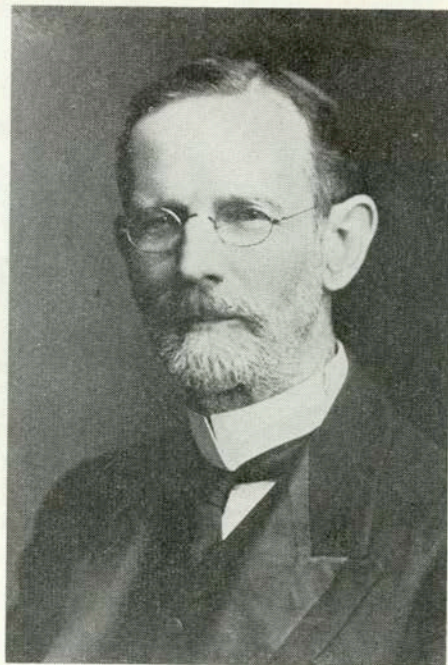


洋菓子の ヒロタ

〈神戸〉元町店・三宮店・さんちか店
秀品店

〈大阪〉梅新店・富国店・ウメダ店
大阪駅東口店・心斎橋店・戎橋店
ナンバ店・天王寺店・天満店・京橋店
守口店・新大阪駅店・淡路店・尼崎店
西尼崎店

●パイオニア神戸



〔9〕

W · R

ランバス

有井基

一八八五年（明治十八年）五月六日。アメリカ南メソ

ジスト教会は、日本にミッジョン（海外宣教部）を設立することを決めた。新教の中でも、他の教派は、明治の開国と同時に布教を始めている。それからすれば二十年近い立ち遅れだ。本部の人選は最初から、中国伝道にめざましい成果をあげたランバス父子にしぼられた。

日本宣教部の総理は、子のウォルター・ラッセル・ランバス。父J・W・ランバスも補佐の形で日本宣教師に任命された。翌十九年七月二十四日、まず父ランバス夫妻が神戸へ到着。居留地四十七番（現在の大丸神戸店東側）に居を構えた。

九月十七日、中国へ向う本部外国伝道局のウィルソン監督が立ち寄り、日本宣教部の開始式を行なった。ランバス父子が創建に努力した神戸栄光教会は、この日を創立の日としている。それはまた同教派の「一粒の麦」が

神戸の地にまかれた日を意味した。

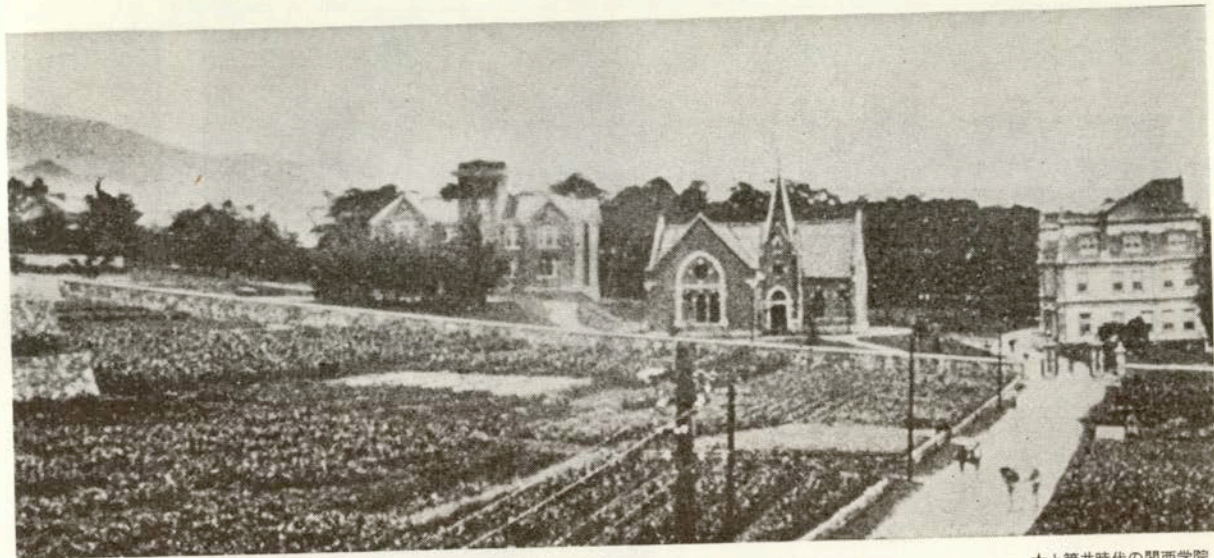
十一月二十四日、前任地北京から若ランバスが着任した。二日目から、かねて父と計画していた通り住居の一室を「読書室」として開放。欧化主義の余熱を残す若い人たちに提供した。ここを訪れたのがセントルイスの「クリスチャン・アドボケート」誌編集長W・P・バルモア牧師。書物と毎年百ドルの寄付を申し出た。

「毎夜七時より九時まで読書室開館但し毎土曜日夜は講談又は討論会を開く青年諸子来会あれ」
ランバスは、こんな看板を掲げた。署名は

「PALMORÉ INSTITUTE（パルモア学院）」

——二十年一月四日のこと。パルモアに寄せる感謝の深さがわかるだろう。

同年八月、居留地から「山二番」といわれた現在のパルモア学院（神戸市生田区北長狭通四丁目）のところが



★上筒井時代の関西学院

転住、夜学校をつづけた。ランバスが、宣教計画の拠点
を、神戸に定めた理由は、大別して二つ――。

一つの、条約港で、ほとんど毎週、アメリカ、中国、
イギリスと交通があり、国際情勢のキャッチが早いこと。
そして当時の条約では、条約港以外での居住権が、日本
人に雇われないかぎり認められなかったこともある。

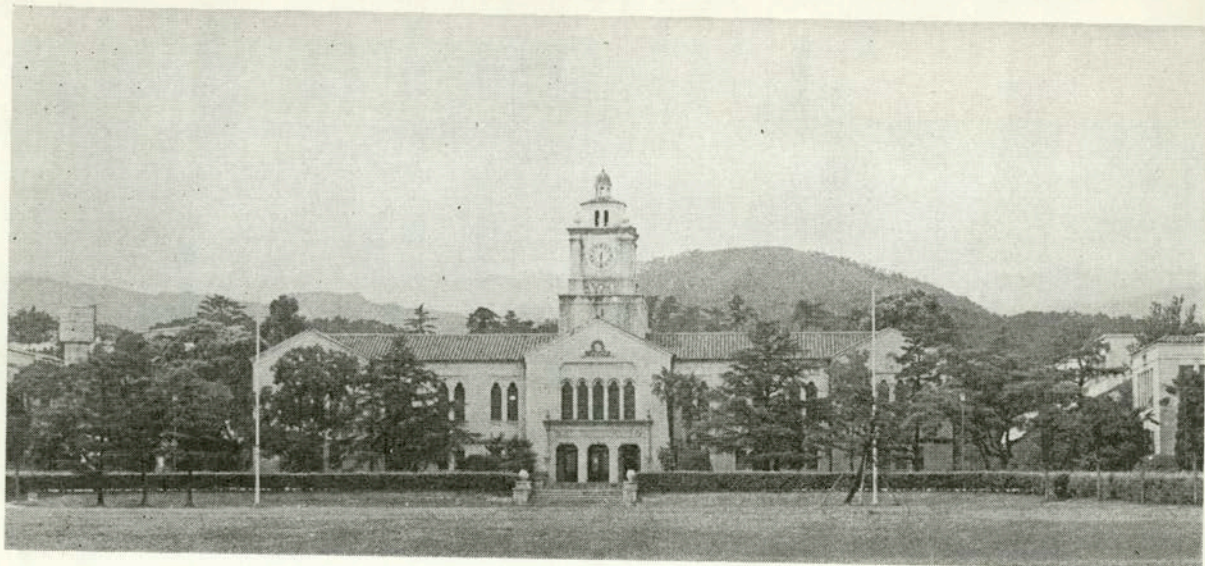
もう一つは、東海道―山陽道を結ぶ中心にあり、瀬戸
内海をおさえる交通上の中心であること。さらに、明治
初年に開拓伝道をめざして来日したメソジスト監督教会
の一派は、三田、洲本などに根を下ろしたが、神戸はほ
んど処女地に近かった。

ランバスは神戸を中心に、東北（大阪、京都、琵琶湖
方面）、南西（広島、山口、下関方面）の三ブロックに
巡回教区をわけた。この年三十三歳。あらゆる苦難にき
たえられた開拓精神は、精力的な伝道に発揮された。父
ランバス夫妻と若ランバス夫妻、そしてもう一人の協力
者・Q・A・デュークス宣教師、五人が一体のチームと
なって、広島、岩国、柳井、山口、多度津、宇和島、大
分といたるところに教会をつくった。

だが、医療伝道で成功した中国とは事情がちがう。上
海で生まれ、アメリカの二つの大学で神学と医学を修め
、二十三歳から中国で医療主体の伝道に従事したかれも、
日本では直接伝道による根の下ろし方に限界を感じてい
た。

考える余地はなかった。目の前に、バルモア学院の成
果があったからだ。キリスト教育による若い世代の人
格形成――これこそ一粒の麦が、やがて大地をおおう光
りとなる。教育機関の必要に確信をもったかれは、二十
年十月十日、父ランバスの力添えで広島細工町に「広島
女学校（現在の広島女学院）」を創立。翌二十一年、神
戸で男子の教育機関をつくろうと計画した。

報告を受けた本部では、直接伝道か学校経営か、方針
について議論がかわされ、ランバスの学校偏重に強い批
判があった。そのため経費の出る望みはなかったが、ラ



★現在西宮・上ヶ原の関西学院大学

ンバスは屈しなかった。多聞教会の会員だった歯科医、雨夜孝太郎の紹介で菟原郡都賀野村のうち原田村の土地（いまの王子公園付近）をみつけた。一万坪で一万円。費用はなかった。

柔和なうちにシンの強いランバスは、香港上海銀行神戸支店の支配人と交渉、無担保で土地買取の手つけ金二千円を借り受けた。天は自ら助くる者を助くという。おりもよしバージニア州リッチモンドの銀行家トーマス・ブランチの寄付を受け、二十二年四月、全額を支払うことができた。名義人は「兵庫ニュース」社にいた神戸教会の会員吉岡美国（関西学院二代目院長）ら三人。

二十二年九月二十八日、兵庫県知事内海忠勝の私立学校設立認可がおりた。校名は「関西学院」。ランバスが初代院長となり、神学部、普通学部の二学部が十月十一日から授業を初めた。当時、革新的な風潮として、固有名詞を漢音で読む流行があった。そのため「関西」を「クワンセイ」と読む学生が多く、当初「弘道館」という名を考えていたランバスの中国好みとも一致。いまにいたるまで KWANSEI GAKUIN と呼ばれている。

同学の一期生、久留島武彦氏の回想によれば「この付近は一キロ、二キロ離れて二、三十戸の小部落が散在しておるだけで……二、三丁上に露天の火葬場があるような、淋しいところ。そこへ木造二階建坪七十八坪の校舎と木造平屋建坪五十七坪半の附属建築物、計二むねがポツンと建った。今日の七十万二千四百余坪（二三・九ヘクタール）の校地『西宮市上ヶ原』からは、想像に難いスタートであった。

だが、摩耶山麓の森に、芝生を敷けた「思索の庭」の出現は、きわめて新鮮だった。ランバス父子の興した教会から、子弟が送りこまれ、官学からは規格にはまることのイヤな連中が、やって来た。永井柳太郎、山田耕作、今東光……がそれである。

関西学院の創設で、キリスト教人格教育の基礎をきづいたランバス父子の、もう一つの仕事に、神戸のランバ

ス女学院（現在の聖和女子短大）がある。老ランバス夫
人が山二番の家で、昼間、若い子女に英語や編みものを
教えていたのが、後に成長して聖和女子短大になった。

開拓伝道者ランバス一家は、同時に偉大な教育事業者だ
ったといえるだろう。つねに日本語を学び、つねに生徒
信者とのコミュニケーションを深めようとしたランバス
は、それら、まいた種のたくましく成長を見ずに日本を
去った。ケリー夫人が病弱なうえ自らも健康を害したか
らである。二十四年一月、四年間、文字通り献身した日
本に別れを告げ、帰国した。前年十月には教育勅語が発
布され、それを利用する反動派の動きもからんで国粋主
義―反キリスト教思潮が目立ってきた時期だけに、心残
りもひとしおだったろう。

帰国したランバスは、二度と日本伝道につけなかった。
教会外国伝道局主事になったからである。ランバスの帰
国後も、日本にとどまって瀬戸内沿岸を巡回していた父
ランバスは二十五年四月、神戸で死に、母メリーは一た
ん帰国した後、中国へわたり三十七年五月、蘇州でこの
世を去った。

その間、ランバスは、メソジスト教会三派（メソジス
ト監督教会、カナダ・メソジスト教会、南メソジスト教
会）の合同に心を砕いた。真理も信仰も一つ。教派の対
立はおろかしい誤まりと信じたかれは努力で、三十九年
三派の合同が可決された。このため関西学院は協同経営
の形になり、財政的にも飛躍的な発展をとげた。

「すべて日本人のためです、もし日本人に不利なこと
があれば、どんな事でも阻止すべきです」

その時、ランバスは関学関係者に、こういったそうで
ある。

一九二〇年（明治四十三年）、かれにもう一つの転回
点を訪れた。米国メソジスト教会総会で、最高職務のビ
ショップ（監督）に就任。世界のランバスになったから
だ。その目は「極東」から「全世界」に向けられた。

同年と大正二年の二回にわたってアフリカ伝道のため

コンゴの奥地に入り、大正八年には第一次世界大戦の戦
火に見舞われた国々を歴訪。大正九年には貧困にあえぐ
中国からシベリアへと足を伸ばした。

そして大正十年、「おそらくこれが最後の旅となるだ
ろう」と友人に手紙を出したランバスは、満州、シベリ
ア、朝鮮を経て、なつかしい日本の土を踏んだ。三十年
ぶりを見る日本。しかし病弱の身に長旅がこたえた。軽
井沢での日本ミッシェン会議の途中、要手術となり横浜
国際病院へ運ばれ、九月二十六日、ついに六十七才の生
涯を終えた。

「魂の問題は哲学によって解決されません。むしろ霊
的な力、祈りと神の言葉の中に、歩むべき方向が示され
るのです」

この純一な信念は、日本の風土でも、みごとに開花し
た。昭和三十四年四月、西宮市上ヶ原の関西学院大学構
内にランバス・メモリアル・ホール（記念礼拝堂）が完
成。人間形成の過程にある多くの人たちの魂に、情熱と
献身の気高さを伝えている。

また「原田の森」には、土地購入に力を与えたブラン
チのメモリアル・チャペルが現存している。明治三十七
年、トーマスの子息ジョン・ブランチの寄付で建てたレ
ンガ建平屋二百五十六平方呎、王子公園の中心部に見え
る赤レンガの落ち着いた、あの建て物である。

近ごろ、上ヶ原へ移す計画も一部にあると聞く。建学
の心を伝える記念碑まで、消し去ろうというのだろうか。
（神戸新聞記者）

☆ ☆ ☆
☆ ☆ ☆

Akira Beauty Shop

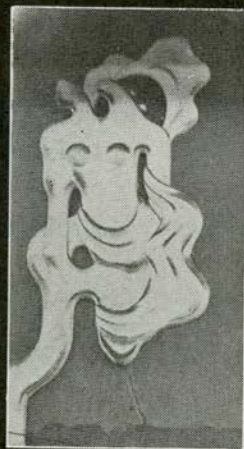


美容室

あきら 西野 明

電話予約制

三宮本通り TEL 33 4461・6458



Lady's Shop

La Mode

MOTOMACHI KOBE TEL 33 5689

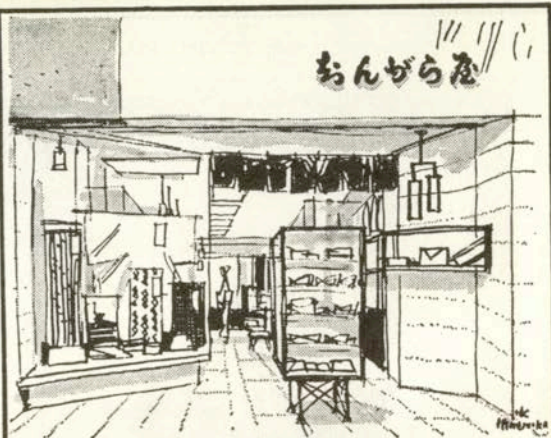


宝石
貴金属
時計



仲庭

さんちかタウン (39) 4 5 9 3
梅田新道 堂ビル北(364)8121代表
桜 橋 毎日新聞社前(341)0412
新大阪ステーションストア
大阪ロイヤルホテルセイコーショップ



きもの と 細 貨

おんがら庵

神 戸

西 店 / 三宮センター街・電話 3 3 - 8 8 3 6 (代)

東 店 / 三宮センター街・電話 3 3 - 0 6 2 9

三宮店 / さんちかタウン・電話 3 9 - 4 3 0 3

東 京

銀座北店 / 銀座並木通り・電話 5 7 3 - 5 2 9 8 (代)

銀座南店 / 銀座並木通り・電話 5 7 2 - 4 8 4 7
(京阪神銀座タウン)